

1 研究主題

自己・教材・仲間とかかわり、学び合う音楽科の授業

2 はじめに

小牧市音楽教育研究会では、主体的・協働的な学習に取り組み、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり、音楽を味わって聴いたりする楽しさを体験させることに重点をおいた。

3 研究経過

研究テーマに沿って、各部員の勤務校において実践・研究を進めた。また、研究主任を中心に研究推進委員会を開催し、令和4年度の愛知県音楽教育研究大会に向けての研究計画を話し合った。

4 研究の概要

研究推進委員会では、日々の授業の実践の情報交換を行った。主に、新学習指導要領における新たな評価基準や新しい教科書の教材研究、さらに市内で1人1台タブレットが導入されたことによるICT機器の活用実践が話題となった。また令和4年度の県音楽教研に向け、小牧市が以前から進めてきた協働的な学習、継続的なふり返りの記述の有用性について再認識するとともに、これまでの「何を学ぶか」という視点の内容から、「何ができるようになるか」という視点の資質・能力を基盤とした教育へ転換していくこと再確認した。児童・生徒自身がその学習活動に意味や課題を見出し、試行錯誤していく中で新たな気づきや発見と出会い、さらにそれが繰り返されることや、「この学びによってこんなことができるようになる」という目標に向けて、見通しをもって音楽活動に取り組んでいくことは、「学びに向かう力」を育み高めていくことにつながると考える。

5 今後の課題

主体的・協働的な活動を取り入れ、音楽の楽しさを体験させることや、見通しをもって取り組ませること、児童・生徒自身が学習活動に意味や課題を見出し、振り返らせることで、資質・能力の三つの柱の一つである「学びに向かう力」を育むことにつながるのではないかと考えることができた。今後は、児童・生徒一人一人が自らの考えを他者と交流したり、互いの気づきを共有し、感じ取ったことに共感したりしながら、個々の学びを深める授業を展開したい。また、自らの学習の見通しをもつことで、児童・生徒が題材全体を俯瞰し自身の成長のプロセスをイメージしやすくする。ふり返りは、目標に対して分かったことやできたことだけでなく、難しかったことや課題などにも触れさせる。また、音楽表現を通して感じたことや、他者との関わりを通して感じたこと、学んだことにも触れさせたい。